

第2回横浜市救急医療センター指定管理者選定委員会 議事録

- 日 時
平成17年12月4日(日) 午後1時から3時30分まで
- 場 所
横浜市庁舎5階 特別会議室
- 出席者等
 - (1) 横浜市救急医療センター指定管理者選定委員 5人
矢野聡委員長、井上光昭委員、関一平委員、橋本廸生委員、松岡美子委員
 - (2) 事務局(横浜市衛生局)
地域医療政策部長、医療政策課長、医療政策担当課長、救急・災害医療担当課長 外6人
 - (3) 指定管理応募者
 - ア 社団法人 横浜市病院協会
 - イ 財団法人 横浜市総合保健医療財団

1 開 会 (司会：横浜市衛生局地域医療政策課 担当係長)

2 応募状況・質問項目について

事務局から①10月18日(火)に公募の周知(市ホームページにアップ、県内救急告示病院及び医療関係団体に通知)、②10月25日(火)に公募説明会と施設見学会を開催し、事前に4法人から説明会参加の申し込みがあり、当日は3団体参加、③1法人から4項目の質問があり、回答は11月18日(金)に市ホームページ上で公開、④11月24日及び25日に応募を受付、社団法人横浜市病院協会及び財団法人横浜市総合保健医療財団の2団体からの応募を受けた旨報告

3 プレゼンテーション及びヒアリング(プレゼンテーションの順番は受付順)

(1) 応募者1：「横浜市病院協会」によるプレゼンテーション及びヒアリング

説明者：横浜市病院協会 荻原会長ほか4人

【ヒアリング：(→以下は応募者の回答)】

- ・18時からの診療開始で、医師は集められるのか。
→開業医、勤務医の2部制にしているのが、この提案の特徴で、18時から診療については勤務医の派遣などで対応する。
- ・積算について、収入で、患者数20%増、診療単価5%増を見込んでいるが、これらの根拠を教えて欲しい。
→診療が18時からの開始になることで、20%の増を見込んでいる。50%増と見込んででも良いくらいだが、抑えて20%としている。また、診療単価は、投薬を当日分から最長3日間とすることで、単価増を見込んでいる。
- ・近隣の医療機関との競合はないのか。
→18時以降開業している医療機関は60~70位と現在は少ないので、競合することはないと考えている。
- ・初期救急においては、医師の数以外にも、質も大切だと考えるが、その点について教えて欲しい

- 病院においても初期救急をおこなっているのので、質は確保できると考える。また、病院協会としても、医師の質については、会員病院等に要請をしていく。
 - ・医療情報センターの運営イメージについて教えて欲しい。
- 医療情報センターの機能としては、救急についてと地域連携の両方を考えている。また、市民が分かりやすい相互交流あるものにする。
 - ・医療情報センターにおける当直医オンコールは可能なのか。
- 会員の病院には、常に医師がいるので、確実にできる。
 - ・救急医療を行っている当直医師が本当に電話のオンコール対応ができるのか。
- 会員病院と連携してオンコール体制を行う。担当病院と医療情報センターの両方のオンコール医師という形式になる。
 - ・現在の報酬より医師の単価を80%減額し、10%のフリーハンドをつけているが、医師を集めるのにこれで大丈夫なのか。
- 8割にしたこの報酬が一般的な水準だと考えている。十分に受け入れられると思う。
 - ・人件費について、看護師、コメディカルなども、現行単価の80%としている。具体的には、看護師：20,000円、事務：11,000円となっているが、この単価が適当なのか、市内の例をあげて教えて欲しい。
- 看護師は時間当たり1,450円の25%増が通常で、今までの単価が高いと考えている。
 - ・18時からの診療における医師・看護師等の確保の問題はどうなのか。
- 病院協会が中心となって、大学、医師会と連携して行う。
 - ・センターにおける警備等の安全確保について教えて欲しい。
- 会員病院の実例を参考にセンターの安全確保に努めたい。
 - ・医療情報センターの人員体制について教えて欲しい。
- 東京都の例では、救急医療のホームページを充実させ、その使用率が高ければ、電話の対応は減らしても大丈夫であるということである。この体制は業者と相談して決めた。
 - ・東京都はかなりお金をかけてホームページをつくっているが、更新等のメンテナンスはどうするのか。
- 必要な情報を会員からも提供してもらうため、さほどお金はかからない。

(2) 応募者2：「横浜市総合保健医療財団」によるプレゼンテーション及びヒアリング

説明者：横浜市総合保健医療財団 鈴木救急医療センター長ほか3人

【ヒアリング：(→以下は応募者の回答)】

- ・障害者に対する救急医療情報センターの受付はどうなっているのか。
- 医療情報センターでは、FAXによるサービスを提供している。
 - ・収支計画で内科患者は18%、小児科患者は15%上昇の見込みとあるがその根拠について教えて欲しい。
- 診療科目毎に過去の増減率を算出し、過去3カ年平均をもとに算出した。
 - ・直近年度では内科の患者が減少しているが、ここが底で、今後は上昇すると考えているのか。
- 深夜帯がなくなるための前倒し分として、患者数の上昇を見込んでいる。
 - ・人件費について教えて欲しい。
- 医師は現状維持（時間あたり15,200円）、看護師は現在5年掛けて見直している最中であり、勤続年数によって報酬に差があるので、平均値を出している。薬剤師、6,500円、検査

技師、放射線技師3500円は平日単価となります。

・ホームページの作成などで、医療機関情報が掲載されると患者数が抑制されると思うが、患者数が増加すると見込まれる理由について教えて欲しい。

→夜間の患者が減るのは理想ではあるが、病院では、準夜の初期救急は現状受け入れられないので、現時点（1,2年は）では増加の傾向にあると考える。

・夜間診療を考えるのであれば、18時から20時までの診療を考えはないのか。

→現時点で医師会との合意がついていないので提案していないが、将来的には実施していきたい。

・ISO14001は環境についての規定だが、9000を取得する予定はないのか。

→ISO14001を取得した後、9000の検討をしていきたい。

・経費削減の提案のところにISOがあるが、ISO導入には費用がかかると考えるがどうか。

→経費以上に、節減効果があると考えている。

・委託費の資料における賃借料の内訳を聞きたい。

→深夜帰宅時のタクシー代、診療室の寝具のレンタルなどとなっています。

・診療所の診療時間について19:30までの診療所数が病院協会の数と食い違っていることについて聞きたい。

→診療所数は資料に基づきました。18時以降も診療をおこなう診療所数は上昇傾向にあります。

・医師単価、看護師単価は据え置きだが、コスト削減の具体的な目標についてはどうか。

→医師単価は据え置き。現時点では医師会と調整中であり、今の単価となっている。看護師単価は5年を掛けて見直している最中である。

4 意見交換と評価票の作成

(1) 意見交換

【業務基準を超える18～20時の診療の提案について】

・業務基準を超える18～20時の診療をどう評価するかが問題である。

・病院協会の提案では、18～20時の診療部分では赤字の試算となっているが、そこまでして実施すべきか。

・市の政策医療として、救急医療センターを夜間診療所としてとらえるのか、救急医療機関としてとらえるのか。

→（事務局）18～20時の夜間診療に対するニーズは増えており、重要な課題と考えているが、救急医療検討委員会でも、結論が出ていない状況にあります。

・行政サービスの水準はどこまでなのか。ニーズがあるからとして提案されたことを評価してよいのか。余計な費用となると考えるのか。

→（事務局）18～20時の診療については、公募要項の中でも提案することは可能であることを明記しています。

【その他】

・横浜市としては人件費戦略は考えているのか。

→（事務局）指定管理者制度を導入することは、コストダウンをめざすという意味もあります。

・救急医療センターの特徴としては、他にはない、医療情報センターをもっているということなので、この機能についての提案を高く評価する必要がある。

- ・病院協会の提案では、民間救急車の活用を提案しているが、市内の台数は少ない。費用もとても高いが、どうするのか。
- ・救急検討委員会でも、現在の救急医療センターは問題があるということで議論しているのに、横浜市総合保健医療財団は見直す意思がないのかと思う。
- ・病院協会の提案は、魅力的で刷新的ではあるが、実現性が低い。総合保健医療財団の提案は堅実だが、救急医療センターを変える気があるのか疑問に思う。

(2) 評価票作成

以上のプレゼンテーション、ヒアリング及び意見交換を踏まえ、各自評価表（素案）の作成となった。また、次回、選定委員会でこの各自評価表（素案）をもとに、最終的な評価点を決めることとなった。

各委員の評価点結果（素案）は下記（次頁）のとおりとなった。